

テーマ展「能面いろは－井伊家伝来能面から－」展示作品リスト

	名称	作者	時代
おもて ぶんるい とくちょう 面の分類と特徴			
おきな おもて 翁－円満な神の面－			
1	はくしきじょう 白式尉		室町時代
2	こくしきじょう 黒式尉		江戸時代
じょう けしん おもて 尉－年老いた神の化身の面－			
3	こじょう 小尉		江戸時代
4	あさくらじょう 朝倉尉	ゆうすいやすひさ 友水庸久	江戸時代 元文2年(1737)
5	さんこうじょう 三光尉		江戸時代
6	あこぶじょう 阿癩尉	なかむらなおひこ 中村直彦	大正～昭和時代
きじん おもて 鬼神－荒々しい神の面－			
7	おおとびで 大飛出		江戸時代
8	こ み 小べし見	どうすいみつり 洞水満昆	江戸時代 享保7年(1722)
9	しかみ 鬘	こだまともみつ 児玉朋満	江戸時代
10	はなこぶあくじょう 鼻瘤悪尉		江戸時代
りょう しんれい おんりょう おもて 霊－神霊や怨霊の面－			
11	あやかし 怪士	こだまみつまさ 児玉満昌	江戸時代
12	やせおとこ 瘦男		江戸時代
13	でいがん 泥眼	どうはくみつたか 洞白満喬	江戸時代
14	はんじゃ 般若	いせきいしげ 井関家重	江戸時代
おもて 男－美少年や貴族・武士の面－			
15	どうじ 童子	こだまみつまさ 児玉満昌	江戸時代
16	ちゅうじょう 中将	ぜかんよしみつ 是閑吉満	桃山時代
17	へいだ 平太	どうはくみつたか 洞白満喬	江戸時代
18	かげきよ 景清	げんりよしみつ 元利栄満	江戸時代
おもて 女－少女から老女の面－			
19	こおもて 小面	おおみやさねもり 大宮真盛	江戸時代
20	ぞうおんな 増女	いせきいしげ 井関家重	江戸時代
21	ふかい 深井		江戸時代
22	うば 姥	ほかんみつなお 甫閑満猶	江戸時代 享保7年(1722)
こめん 古面－定型化以前の能面－			
23	あさひ 朝日		室町時代
24	ざおう 蔵王		室町時代
めんぶくろ 能面の裏と面袋			
25	しょうじょう めん うら 猩々(面裏)	ほかんみつなお 甫閑満猶	江戸時代 享保16年(1731)
26	こおもて めんうら 小面(面裏)	いせきいしげ 井関家重	江戸時代
27	めんぶくろ 面袋		江戸時代
28	めんぶくろ 面袋		江戸時代
29	めんつつみざれ 面包裂		江戸時代

※いずれも所蔵は彦根城博物館(井伊家伝来資料)

作品解説

1 白色尉 1面 (作品リストNO. 1)

木造彩色

面長 18.6cm 面幅 14.6cm 面奥 8.4cm

室町時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

〈翁〉は、天下泰平や五穀豊穰を祈る儀式的な演目です。翁と三番叟が登場して舞を舞い、世を言祝ぐという内容で、能が成立する以前にすでに芸能として成立していました。白色尉は、この翁の役にのみ使用する面です。彩色は白色で、への字にくり抜かれた眼と、眼から額、頬にかけて刻まれた皺が、他の面にはない柔和な笑いの相を表しています。口の上下を切り離して紐で繋ぐ切り顎と、綿や絹糸を貼り付けたボウボウ眉という飾り眉も、翁のグループの面にのみ見られる特徴的な工作です。



2 小べし見 洞水満昆 作 1面 (作品リストNO. 8)

木造彩色

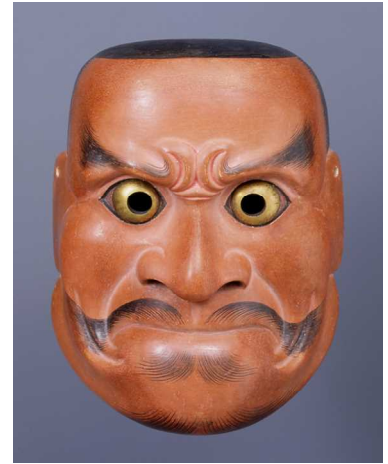
面長 20.6cm 面幅 15.8cm 面奥 9.2cm

江戸時代 享保7年 (1722)

当蔵 (井伊家伝来資料)

荒々しい力を宿す恐ろしい神を表した、鬼神の面の1つ。「べし見」の名称は、口を強くつぐむことを「へしむ」と言ったことに由来し、小べし見は、地獄の鬼神や閻魔などの役で使用します。面全体を朱色とし、口を真一文字に引き結び、眉をきつく寄せて金色の眼を見開く、引き締まった表情の面です。鬼神の面は、眼や歯に金属板を嵌め込む工作が特徴であり、小べし見の眼も金属板が使用されています。

面裏に、「出目洞水」の焼印と「小癩見／享保七壬寅七月出来」の朱漆銘があることから、面の制作を家業とした世襲面打家の一つ、大野出目家5代の洞水満昆(?~1729)が、享保7年(1722)に作った面と分かります。



3 般若 井関家重 作 1面 (作品リストNO. 14)

木造彩色

面長 21.1cm 面幅 16.9cm 面奥 9.3cm

江戸時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

神霊や怨霊を表した霊の面の1つ。嫉妬と恨みの果てに怨霊となった女を表した面で、〈葵上〉の六条御息所や、〈道成寺〉の恨みのために蛇体となった女などの役で使用します。額に2本の角を生やし、金色の眼を見開き、吊り上がった口か



ら金色の歯と牙を覗かせ、激しい怒りの表情を示します。一方で、眉を寄せたその表情からは深い悲しみも感じられ、怒りと悲しみという相反する感情が、巧みに造形化されています。

面裏には、江戸時代初期の名工である井関家重(？～1657)の焼印「天下一河内」と、家重の知らせ匏(作者が自らの作であること示すために面裏に刻んだ彫り跡)である、右紐孔上の薄い放射状の彫り跡と、鼻孔の間の2筋の彫り跡があります。

4 中将 是閑吉満 作 1面 (作品リストNO.16)

木造彩色

面長 20.2cm 面幅 13.6cm 面奥 7.4cm

桃山時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

王朝の貴公子を表す男の面。その名前は、平安時代の歌人で五中将とも呼ばれた、在原業平に由来します。白い肌、額の八の字の作り眉、鼻の下の産毛のような鬚、お歯黒で染めた歯が、いかにも王朝の貴公子らしい気品と繊細さを感じさせる一方で、眉間に寄せた2筋の皺からは、一抹の憂愁が漂います。(雲林院)や(須磨源氏) (融)などの演目において、貴人や天皇の霊の役で使用します。

面裏に緑青を埋め込んだ「天下一是閑」の焼印があることから、桃山時代に活躍した面打、是閑吉満(？～1616)の作と分かります。是閑は、豊臣秀吉から「天下一」を名乗ることを許された名工です。



5 小面 大宮真盛 作 1面 (作品リストNO.19)

木造彩色

面長 21.2cm 面幅 13.4cm 面奥 7.0cm

桃山時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

高貴な若い女性の面。小面の「小」は、年が若いこと、優しく美しいことを意味します。広い額とふくよかな頬、目鼻が顔の中央によったあどけない顔立ちが、いかにも初々しい印象を与えます。女の面の中で最も若い面で、きゅっと上がった口元と、切れ長の眼が印象的です。額の中央から頬まで流れるように髪が表されており、女の面では、この毛筋描きに乱れが増えるほど、年嵩であることを表します。

面裏に、井関家重の弟子である大宮真盛(？～1672)の焼印「天下一大和」があります。真盛は、特に小面に優れると伝えられる面打です。



6 猩々しょうじょう めんうら（面裏） 甫閑満猶ほ かんみつなお 作 1面（作品リストNO.25）

木造彩色

面長 20.9cm 面幅 13.8cm 面奥 7.3cm

江戸時代 享保16年(1731)

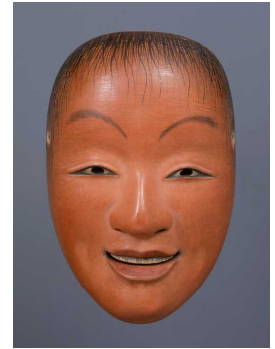
当館蔵（井伊家伝来資料）

男の面の一種で、しょうじょう「猩々」という演目のシテである猩々の専用面。猩々は、酒を好むという中国の妖精です。

面裏には、向かって左眼の上に①焼印「出目甫閑」、額中央から右の口元までに②朱漆銘「観世形かんぜがた／猩々／享保十六辛亥六月／出来」、左頬に③金泥銘「旧因州侯蔵おおの で め／六十二／橋岡久太郎所持」があります。①と②から、この面が享保16年(1731)に、世襲面打家である大野出目家6代おおの で めの甫閑満猶ほ かんみつなお（?～1750）が制作したものと確認できます。「観世形」とは、観世流の猩々の面の型との意味です。③は、明治から昭和初期に活躍した観世流の能役者、橋岡久太郎（1884～1963）が記したもので、その内容から、鳥取藩主池田家の旧蔵面であること、これを久太郎が所蔵していたことが分かります。面裏の焼印や銘によって、作者や制作年、伝来を知ることができる作例です。



6 猩々（面裏）



6 参考 猩々

はしおかきゅう たろう

7 小面こおもて めんうら（面裏） 井関家重い せきいえしげ 作 1面（作品リストNO.26）

木造彩色

面長 21.1cm 面幅 13.5cm 面奥 7.1cm

江戸時代

当館蔵（井伊家伝来資料）

こおもて小面は若い女を表した面です。この面の面裏を子細に観察すると、江戸時代初期の名工である井関家重い せきいえしげ（?～1657）の知らせ鉋し がんな（作者が自らの作であること示すために面裏に刻んだ彫り跡）である、右紐孔上の薄い放射状の彫り跡と、鼻孔の間の2筋の彫り跡が確認できます。井関家重のほか、桃山時代に活躍した面打えちぜん で めで越前出目家初代の二郎左衛門満照じろうざ えもんみつるや是閑吉満ぜ かんよしみつ（?～1616）などの作品にも知らせ鉋があることが知られています。



2 小面(面裏)



放射状の彫り跡



鼻孔の間の彫り跡



2 参考 小面

8 面袋^{めんぶくろ} 1枚 (作品リストNO.27)

縦 37.2cm 横 24.5cm

江戸時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

面袋^{めんぶくろ}とは、能面を収納する袋のこと。面袋には、しばしば、使用できなくなった能装束を仕立て直したのを見られます。この面袋もその1つ。萌葱^{もえぎ}地に菊と桐の唐草文様を表した唐織^{からおり}の裂^{きれ}を用い、袋の表に「笑尉^{わらいじょう}」と墨で記します。この裂は、文様の表現や紅色を多様した明るい配色、文様を表すふっくらとした緯糸^{ぬきいと}(横糸)の様子から、貴重な桃山時代の唐織裂と考えられるものです。

